

高知工科大学紀要第1巻の発刊にあたって

「高知県に工科系の大学を」、平成3年の高知県知事選挙で、橋本大二郎高知県知事（本学理事長）が、公約してから6年後、それは現実のものとなり高知工科大学は開学しました。

本学は、「ユニークで柔軟な教育体制、県内産業の振興への寄与、地域貢献」を設立の基本方針とし、開学してから7年目を迎えました。その間、教育面においては、大学院の早期設置、語学教育、情報処理教育、少人数制・習熟度別教育を重視した様々な授業形態を取り入れ、また、インターンシップに早期から取り組むなど、その充実に努めてまいりました。

一方、研究面では、高知県の産・官・学連携の拠点となる連携研究センターの整備、国の補助事業である科学研究費補助金、ハイテクリサーチセンター及び学術フロンティア推進事業の採択並びに高知県との地域結集型共同研究事業を始めとした公的機関等との共同・受託研究の実施など、積極的な取り組みをしてきました。

これらの取り組みの基盤となる大学組織も、開学時から自己点検・評価を実施し、昨年度には外部評価を実施するとともに教員評価システムを構築するなど常に組織力の向上を目指しています。また、今年度には教職員が一体となって教育が進められるよう事務・教育組織の抜本的な改革を行うなど、様々な取り組みを行ってまいりました。

そこで、本学設立の背景や趣旨から始まり、開学後の大学内外での教育への取り組み、地域貢献及び研究成果等を「高知工科大学紀要第1巻」として、発刊することとしました。

この紀要は、単なる研究に関する論文集としてではなく、大学全体の活動やその存在意義等について、学外の皆様方にも公にしていこうとするものです。関係各界の皆様から多くのご指導ご鞭撻を賜ることができればと存じます。

高知工科大学学長 岡 村 甫